

# 飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



南スーダン・マブイ小学校での給食支援

## 病を通して考えたこと

日本国際飢餓対策機構 常務理事 清家弘久

昨年(2014)の10月、食料デー大会が各地で行われているときに、私自身が全く思ってもみなかったこと、突然の大きな病に罹りました。まさしく晴天の霹靂でした。すぐに一緒にいたスタッフが病院を探し、速やかに適切な治療を受けることができました。10日ほどの入院の後、地元に戻ってリハビリ病院へ再入院し約2ヵ月弱で職場復帰を果たすことができました。多くの方々の祈り、励ましを本当に心から感謝致します。今までと同じ動き方はできないかもしれませんが、これまでのように発信は続けていきます。

入院・治療を受けている時に、発病したのが日本でよかったという思いが何度も頭をよぎりました。アジアやアフリカの途上国で倒れていたらどうなっていただろうと想像した時、そこで生きている人は病院に行くこともできず、助かる生命も助からない、という厳しい現実を考え胸が引き裂かれる思いでした。

アフリカでは多くの国の平均余命が50歳代、JIFHが支援させていただいているコンゴや南スーダン、ウガンダ、ジンバブエ、ブルキナファソ、モザンビークは軒並み40歳代です。子どもたちが病に罹ってもほとんどが薬さえもらえず、放置されています。さらに医者がいる医療機関が首

都部にしかなく、地方の人は保健所に行くことはできてもそこには医療関係者はほとんどいないのが現実です。したがって多くの方が民間療法に頼っています。村を歩いても魔術師に頼る人々がどれほど多いかを実感することがしばしばです。その方法は強い酒で神経を麻痺させて暗示にかけていくものです。そういった現実を打破していくために保健、医療に関する取り組みも始まっています。

ウガンダでは、世界里親会で長い間支援をさせていただいたムコノ県で学校の隣に保健センターが作られ、本格的な地域医療の取り組みが始められています。またアガペーホスピタルという民間病院の取り組みをJIFHは応援し、病院に来る人も来る人ができない人にも地域の取り組みとして薬や食事の支援をしています。南スーダンでは給食支援をしているマブイスクールでクリニックが併設され、本格的な地域医療が行われています。ケニアのシーブケア学校のルーカ校長は、自分の出身地であるニヤカチという地域で衛生的な水の供給を始めています。

地域が変わるには時間がかかりますが、自分たちが取り組んで地域を変えていこうとする人々がいることが感謝であり希望です。「私から始める、世界が変わる」

### 3月 ファシリテータートレーニング

飢餓問題に関心がある人の基礎講座

「いつか海外で働きたい」「なぜ貧しい国があるの」「開発途上国で活動となるとちょっと心配」という方にお勧めします!講師の話聞くだけでなく、グループワークもします。

日時: 2015年3月16日(月)~3月21日(土)  
場所: 東京基督教大学

(千葉県印西市内野3-301-5-1)  
費用: 3万円(テキスト代含む)  
受付: 大阪事務所・吉本 ☎072-920-2225

### チョコ&コーヒー わくわくおまかせセット

協力企業キングダムビジネスから

#### ①フェアトレードチョコレート【4つ】

6種の味(オレンジ、ミルク、ホワイト、ヘーゼルナッツ、レーズン&カシューナッツ、ビター各325円)から4つおまかせで計1,300円

#### ②モカブレンド・レギュラーコーヒー【1袋】

200g入り870円。①②計2,170円

以上を送料込み割引価格2,500円でお届けします。(国内に限る。北海道、沖縄は800円加算)先着15名様には、手工芸品のプレゼントも。バレンタインデー等の贈り物にはラッピングしてお届けします。ご希望をお知らせ下さい。本年も宜しく願いいたします。

【お申し込み】 株式会社キングダムビジネス

〒540-0026 大阪市中央区内本町1-4-12NPOビル402

TEL: 06-6755-4877 FAX: 06-6755-4888



### ニジェール・仏紙抗議デモの暴徒化で56教会が放火被害

ニジェール各地で、フランスの新聞社シャルリ・エブドの風刺画に抗議するデモが暴徒化し、キリスト教会(56教会)が襲撃を受けました。

ニジェールの現地パートナーで地域リーダーのトレーニングなどを推進しているジャック・カンニデ師の教会も襲われ、全焼しました。詳細は、現地に問い合わせで次号以降でお知らせいたします。JIFHは被害を受けた人々のために又世界平和のために祈っています。



放火により焼失した教会の内部

### ハンガーゼロサポーターを大募集中!!

現在...  
3月8日20時

### 今すぐ▶▶▶各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。  
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。  
毎月( )円 (1円1,000円)
- ☐ チャイルド・サポーター(世界里親会)になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。  
毎月( )円 (1円1,000円)
- ☐ JIFHサポーターとして協力します。  
毎月( )円 (1円500円)
- ☐ ウガンダレンガ募金( )円(1個3,000円)
- ☐ 今回に限り( )円協力します。
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ氏名: 男・女

〒住所:

フリガナ住所:

.....

(電話)

▼申込日: 年 月 日▼NL 295号

FAX・072-920-2155

大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1

東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室

東北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ2階E

愛知 〒466-0064 名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター2F

広島 〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLCボックス2F

沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米202号

U.S.A. Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa

8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605

TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするた

めに、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛

関西地区のボランティアの皆様が送付作業のこ

め、

協力をして下さっています。

■発行者 岩橋竜介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

Webサイトアドレス http://www.jifh.org/  
eメールアドレス general@jifh.org  
フェイスブック https://www.facebook.com/hungerzero

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで

●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構

●他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ



JCBカードも使えるようになりました!



「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。



# 食料危機と難民流入 困難が続くニジェール



ナイジェリアからの難民



ダン・チャンドウ村での食料支援

カルマ村での食料支援の様子

西アフリカにあるニジェールは、2005年、10年、12年、13年の干ばつによる食料不足、そして頻発する洪水によって畑や家畜が流れ、栄養不良の割合が高いアフリカのサヘル地域の中でも特に厳しい食料危機に見舞われてきました。1日1.25ドル未満で生活する国民が全人口の44%（世界子ども白書2014）に及び、2013年の人間開発指数は世界187か国中最下位です。

このようにニジェールの人々はこれまでたいへん厳しい生活を強いられてきている上、2014年には天候不順と8月に起こった洪水で壊滅的な被害を受けています。このために当機構は、洪水で大きな被害を受けたニアメのダン・チャンドウ村の331人とカルマ村の214人に協力団体のバルナバス・ファンドを通して食料援助としてミレット（きび）50kgと米25kgを緊急配布しました。

## VOICE 支援を受け取った人々の声

ヤクバ バロ 〈ダン・チャンドウ村〉

ここでの生活は大へんです。次々と困難がおそってきて、私たちの家も穀物倉もなくなりま

した。子どもたちも私も、全てを失うってどんなことかを知りました。本当にいい時に食べるものを頂けてほっとしています。支援してくださった方々を神様が祝福してくださいますように。

ハムザ マスード 〈カルマ村〉

なんてお礼を言ったらいいのか、ことばが見つかりません。心から感謝します。私たちはJIFHの支援で助かりました。皆様に神様の祝福と恵みがありますように。

メ アイドリッサ ハルー 〈カルマ村〉

毎年この時期は食べ物がなくなって特に苦しいです。ご支援本当にありがとうございます。

食料支援を受けた人たちは、受け取ることができなかった人々と分け合っているということです。

## ナイジェリア難民支援も視野に

さらにニジェールへは、隣国のマリから政府と反政府勢力の衝突による治安悪化のために難を逃れて流入する人々や、ナイジェリアで活動を活発化するイスラム過激派組織から逃れてくる人々があり、その数は10万人に上ると見られています。その70%以上が女性や子どもです。難民だけではなく地元の住民も水や食料の確保が困難な状態であり、国連機関が支援を呼びかけています。

JIFHが続けて食料援助を行っていくには、ハンガーゼロ・サポーターのご支援が必要です。皆様のご協力をお願い致します。

※最終頁にニジェール別記事



ニジェール国内のナイジェリア難民キャンプ。テロ組織ボコ・ハラムの活動激化で難民が増加している

「ハンガーゼロ・サポーター」は1000円／月からスタートできます。最終面に申込み欄、ウェブからも募金ができます

各地で災害公営住宅の建設が進む



## 東日本大震災被災者支援レポート

# 復興とともに変わりゆく「故郷」

## 3.11 震災から4年を経て

あの日からもう4年が経過したのだ、という思いがします。昨日のように思い出される事もあれば、すでにぼやけてしまった記憶もあります。一方沿岸部に行くと生々しい爪痕が残る地域があり、土地のかさ上げや造成の工事車両を目にすると、3.11が続いていることを感じさせます。



ふくしまHOPEプロジェクト（子どもと家族支援）



パン・アキモさんの仮設訪問「揚げパン」も継続中



広島土砂災害の被災者のために募金集めをしてくださった塩釜聖書バプテスト教会（宮城県）のみなさん

福島県でも、震災後通行が禁止されていた国道の規制が解かれ、有料道路も次々に開通してアクセスが便利になってきました。このように目に見える「新しい歩み」がある一方、目に見えない放射能に関しては、いまだに専門家の意見が「安全だ」「安全でない（かもしれない）」と分かれています。

自分の意思に反して、移動や居残りを選択しなければならない福島の方々の苦悩を見聞きしても、何もできない現実を突きつけられますが、私たちは福島と共に歩みたいとの思いを持ち続けています。

この4年、国内外で甚大な被害をもたらした災害が頻発しました。フィリピンを襲った台風30号、広島土砂災害、長野県北部地震など、3.11当時の東北被災地と重なる各地の映像に、心が痛みました。その様な中、東北の被災者からフィリピンや広島の方々に義捐金を届けたいというお話をいただきました。募金をしてくださった方の多くは、東北で被災をされた方々です。「東北の方々からの募金だということで、被災されて

いる方も励まされると思います」と言う、「私たちもたくさんの方に助けてもらったから、少しでも恩返しがしたい」と皆さんが言うてくださいます。自分たちが味わった痛みや悲しみが、多くの人たちの愛で和らいだ経験があ

るからこそ、人の痛みを共に背負いたいと思われるのでしょう。

震災後盛んに見聞きした「絆」という言葉は、今や「風化」されてきている印象を受けますが、『絆』は東北の被災地から別の被災地へしっかりと結ばれています。

## 新しい「故郷」作りへ

東北沿岸部は歳月とともにその様を変え、今までとは異なる風景が広がっていくことでしょう。先日、沿岸部の男性が、「以前とは変わるこの町の新しい姿が、若い人たちにとっては『故郷』になるのだと思います。変わりゆく地を目にして、『故郷』とは変化していくものだったのだ、と感じています」と言われた言葉が、復興に向けて大きく動き出す中での人々の気持ちを物語っているのではないのでしょうか。

（東北事務所・伊東綾）

## 募金受付を継続

これまで温かい支援をしてくださった皆様に心から感謝致します。皆様の応援によってJIFHは、多くの団体が活動を終了する中でもさまざまな形で支援を続けることができました。被災地でも人々の暮らしぶりも変わりつつありますが、私たちは被災された方々の自立の歩みを尊重しつつ、寄り添っていきけるよき隣り人でありたいと願っています。引き続き応援をよろしくお願い致します。※募金は郵便振替やウェブから





## フィリピン ミンドロ島 サンアンドレス村での教育支援と生活改善

### キーワードは価値観の変革

日本国際飢餓対策機構を通して皆さまのご支援を頂き、ハンズ・オブ・ラブ・フィリピンが教育支援と地域開発に関わって6年が過ぎました。

フィリピンで子どもが学校に行けない大きな理由として貧困があげられます。しかし家庭の価値観の方がより大きな影響を与えていると私たちは認識しています。

限られた収入の中で、食費を削ってでも教育費をねん出するかどうか、ということです。増えた収入が教育費とならず、酒やギャンブルに消えてしまえば、子ども

の教育環境は改善されません。そこで私たちは、コミュニティでの活動を考えるとき、それが価値観の変革にどうつながっていくかを常に念頭に置いてきました。

### 価値観変革へのアプローチ

外部の者が、フィリピンの教育の内容に直接かかわることができませんが、道徳教育だけは政府公認で外部の者がかかわれます。私たちは、地域の人々自身が子どもの道徳（価値観）教育にかかわってほしいと願い、そのためにボランティアを募って、週一回の授業の為に教材を提供してきました。しかしながら、ボランティアがそれを続けることができず、現在は中止となっています。地方では、人を指導できる人材の不足は都市部以上に深刻です。

一方で、私たちは貧しい地域の中でも特に貧しい家庭の子ども、

そして教育を受けたいという強い思いを持っている子どもたちに学費を支援しています。そのために毎年テストを行い、その基準に到達した子どもを支援するようにしています。フィリピン人スタッフが、この方法が一番公平で支援を生かすことができると提案してくれたからです。

支援をしている子どもたちとはスタッフが定期的に会い、さまざまなアプローチをしています。何か問題があれば話し合いをして、どうしていけばよいかを子どもたちの視点で解決が図れるように助けています。

### 子どもたちの社会性の成熟

マンヤン人の子どもたちには、収穫前の食糧確保が一番難しい時期に給食を実施しています。その折に、みんな思い思いの場所で食べているのですが、やっぱり一緒に食べたい、と言うのでそのためにはどうしたらいいかを子どもたちと話し合いました。

子どもたちは、テーブルが必要なことに気付き、そのデザイン、材料集め、製作までをほとんど自分たちで成し遂げました。個人の問題ではなく、学校給食時の改善という半ば公的な問題に対して彼ら自身が取り組んだことは、スタッフにとっては大きな驚きであり喜びでした。



補習授業プログラムに参加する低地の女性

ビーズクラフト

### 学びを収入につなげるために

フィリピンの成人識字率は92%前後、そして比較的男女同等の教育機会が与えられていて、女性の社会進出率も大です。4年間だった中等教育が改善され、2013年より基礎教育7年、中・高等教育6年、大学4年となりました。

小学校1年生が高校を卒業するのは、ミンドロ島を含む行政区の統計（2000年）ではわずか10%でしたが、その数字も劇的に改善されています。それでも70%弱と言われているのが現状です。

フィリピン政府は、途中退学者の救済措置として、学力認定試験（日本の大検のようなもの）を設け、基礎教育認定、中等教育修了をその試験に合格すると得られることができるようにしています。

それにより大学受験資格を取ることができたり、TESDA（日本でいう職業訓練校）においてより高等な訓練も受けることで、仕事の機会を増やそうとしています。

2013年にサンアンドレスのボラ

ンティアから、学校に行っていない、仕事もきちんとしていない青年たちに何かするべきだという声があがりました。

そこで私たちは、関係機関と連絡を取り、資格取得のための、補習授業のプログラムを始めることができました。参加者はまだ7人（マンヤン3人、タガログ4人）ですが、復学には難しい年齢になってしまった青年、婦人たちが、自分の将来にビジョンを持ち、それを実現する手段としてこの授業が利用されるよう願っています。

### 収入改善支援プログラム

現金収入の増加は、教育費、医療費を自分たちの手で賄うために必要不可欠です。

ミンドロ島のサンアンドレス村では、収入改善プログラムとして住民の願いから始まった石鯿作りとビーズクラフトが行われています。このグループは、政府の労

働省に認可され活動費の一部の支援を受けて、活動を継続することができています。しかしさらに継続して行くためには市場の確保が必要です。

その解決策として、ハンズ・オブ・ラブ・フィリピンは、KAPASA(結ばれた愛の手、というタガログ語の頭文字)というブランドを作り、そのブランドのも



政府の認可後1周年を迎えました

とで、販売促進をしていこうと計画しています。

自分たちに出来ることを精一杯して生活を建て上げて行く時、自尊心が生まれ、目が輝いて力強い歩みが出来ることをミンドロ島の方々との関わりの中で見させて頂いています。私たちの願いは、その人たちが将来、さらに貧しい人々を支えて下さることです。



商品化された石鯿



教育支援を受けている子どもたち、知識の向上とともに社会性も育まれてきている



世界の現実を知り、自分の生き方を見つめ直す

当機構では国際理解や国際協力をテーマにした総合学習授業、又団体の勉強会などにスタッフを講師として派遣しています。また地元の中学生の職場体験も各事務所で受け入れています。ご希望の方はお気軽に各事務所にご連絡ください。

食べる物があることに感謝すること、また普段の生活を見直し、無駄な浪費をしないこと、命を大切にし、世界の人々と共に生きる生き方をするよう生徒たちに呼びかけています。(大阪事務所・吉田)

～ 感想文から ～

私は主に中学校を担当しているのですが、講演では、世界の飢餓の現状をお伝えし、また私自身が現地で見聞きし、経験したことなどをお話しています。さらにJIFHが掲げている「私から始める、世界が変わる」を実践する方法として、まず学校で勉強できることや



神戸市立舞子中学校で講演中の吉田

**私**は正直、世界の貧しい国のことについてひと事にしていたように思います。映像などをたくさん見せてもらって自分とはまったく違う世界が同じ地球にあるのだということが改めて分かり、本当につらくて私には何ができるのだろうと必死で考えました。そして考えたことは、今こうして当たり前で生きている毎日をあたりまえではなくて、大切にすることです。私は、こんなに良い経験をさせてもらったからには、少しでも世界で飢餓で死んでしまう人がいなくなるように協力し



食料問題を講演中の田村総主事（沖縄）

ていきたいと思います。(中3・女子)

◇ ◆ ◆ ◆ ◇  
**勉**強することが楽しいというケアの子どもたちの映像を見て、私たちは勉強は楽しくないと思えるほど恵まれているんだなと思いました。(中3・女子)

◇ ◆ ◆ ◆ ◇  
**私**は平和学習とか本当に興味がなくて、今日の講演もあまり興味がなかったのですが、今日のお話を聞いて、なにか私に出来ることはないのだろうかと自分でも信じられないくらい平和について考えました。(中1・女子)

将来に備えて  
中学生職場体験  
大阪事務所



大阪事務所では、地元の中学生の職場体験を受け入れています。体験に来てくれた中学生たちは、まずJIFHの活動についてのオリエンテーションを受け、各部署のスタッフから担当の仕事について説明を聞いた後、仕事にとりかかります。パンフレットの発送の手伝いや宛名書き、英語の好きな生徒さんは里子から里親さんあてにきたカードや手紙の翻訳や海外の支援地との書類の整理もします。

JIFHの職場体験を通して普段接することのないアフリカや南米、アジアの国の子どもの様子などを知り、世界の飢餓・貧困の現状に目を向ける機会になればと願っています。お問合せ ☎072 (920) 2225・吉本



大阪府高石市の閑静な住宅街に木の温もりが漂う「fika Jansson」(フィーカヤンソン) があります。フィーカとはスウェーデン語で「お茶しながら楽しく会話を」という意味で、まるで我が家にいるような居心地の良さが評判になっています。カフェでは、地球型募金箱を置いてくださり手作り装飾品の販売スペースがあり、売上の全額を飢餓・貧困に苦しむ人々に募金して下さっています。オーナーの山田由紀子さんに伺いました。

○店 大阪府高石市羽衣 4-5-3 (近くに無料駐車場有)  
電話072-261-0831 OPEN ⑨～⑫ 11:00-15:00

フィーカヤンソン

北欧スタイルのカフェで安らぎ提供

Q 山田さんとスウェーデンとの関わりについて教えてください

A 高校生のときにスウェーデン人宣教師夫妻から英語を学ぶ機会があって、その時にお料理やお菓子作りも教えていただき、スウェーデンの文化やゆったりした生活スタイルに惹かれました。この家は25年前にノルウェーから建築資材を取り寄せて建てました。子どものアトピー対策もあり木造建築にこだわりもありました。

Q オープン以来、すでにネットなどで“心休まるカフェ”として評判が広がっているようですね。

A 「誰でも気軽に訪れる場を提供したい」との私と主人の思いが一つとなって一昨年末にオープンしたのですが、「すべて疲れた人はわたしのところに来なさい」という聖書の言葉をテーマにしています。そうしましたら、本当に心

になっています。日によって女性グループで賑わったり、高齢者のデイサービスのようになったり、子どもたちの遊び場になることもあり

ます。皆さんまるで自分の家のように感じて下さっているのが嬉しいです。子どもから「おばあちゃん絵本読んで」なんて言われたりすることもあります。(笑)

出会いから支援の輪も

Q お店で募金協力として置いておられる手作りの装飾品は、お客様からのご提供とのことですが

A 私が通っている教会の方の知人で、手作りアクセサリーの趣味をお持ちで「世界の人々のために役立てるなら喜んで提供したい」との嬉しいお申し出をいただ



美しいストーンを使ったアクセサリーの一例

きました。作品には大小様々のストーン(アメジスト、ガーネットなど数十種)が使われており、材料だけでも費用がかかると思うのですが、提供者の意向もあって1個につき300円以上の募金という形で購入して頂いています。買わ



人気の生ハムのサンドイッチ



1年で1千人との出会いがあったことが感謝!と山田さん

れるのはほとんどが女性の方ですが、みなさん安いし、買うことで人のお役にも立てるならと多めに買ってお金を募金箱に入れてくださいます。

私に取りましても、何らの形で飢餓対策に協力していきたいと思っていたので、このような人々との出会いから始まって、実現できたことが嬉しいですね。

販売コーナーにはJIFHのニュースレターや届いた募金領収書なども掲示して、それを見て安心していただくとともに、少しでも世界の現実を知っていただくようにしています。

Q これからの計画は?

A つい先日、ニュースレター(昨年12月号)で紹介されていた芦屋市のグラノーラの「KOQUU」を尋ねました。突然でしたが、責任者の京林マネージャーとお話することができました。その時お互いに健康第一の考え方で意気投合しまして、オーガニックグラノーラを提供していただけることになりました。春頃にはグラノーラを新メニューとして提供したいと考えています。